

2021 心不全オンライン勉強会 質疑応答集(保険薬局編)

2021年8月から9月に実施しました心不全オンライン勉強会に、11保険薬局計33名の方に御参加いただき、ありがとうございました。
勉強会中の議論内容・質疑応答内容をまとめました。
今後も皆様の力を借りて地域で心不全診療を行っていききたいと考えています。よろしく願い申し上げます。

議論点	オンライン勉強会にての意見	コメント
①心不全ノートを情報提供書のように活用して、退院後の継続指導をいただくことは可能でしょうか？	<p>【心不全患者さんかどうかの把握】</p> <ul style="list-style-type: none"> 心不全ノートを持参してきた患者さんを見たことがありません 心不全ノートを使用していることが分かっていますが、薬局には持ってきてくれません 心不全ノートは、すべての医療機関で提示するように指導して欲しい レニン・アンギオテンシン・アルドステロン系阻害薬を服用している患者さんが心不全のために処方を受けているのか高血圧のために処方を受けているのか分かりにくい 心不全ノートを使用していることを明示するシールは有用な可能性高い 	<p>改訂版では、“心不全ノートを調剤薬局を含むすべての医療機関で提示するように”記載して指導していきます。</p>
	<p>【服薬指導の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> 服薬指導時間は5～10分間（初回は長い） 高齢者が多いため、電子お薬手帳は殆ど使用していません ARNI（エンレスト）を服用している患者さんには「エンレスト手帳」を用いて指導を行っています クリニック医師と週1回カンファレンスを行っています クリニックと早朝カンファレンスを行っています クリニックに来ている市民病院からの情報提供書を共有して病態の把握を行うようにしています 質問事項があればクリニックに問い合わせています（複数薬局） 	<p>クリニックとの密な連携を行っている点は非常に素晴らしいと感じました。</p>
	<p>【市民病院に求めること】</p> <ul style="list-style-type: none"> 退院時に薬剤師からFAXによる情報提供が欲しい（複数薬局） 入院中の薬物療法で留意した事項を教えて欲しい 特に気を付けることがあればFAXで教えて欲しい 緊急入院した時に把握できないため連絡が欲しい 過去に糖尿病患者で限定して行っていた情報提供を心不全でも行ってほしい β遮断薬処方時に徐脈などの副作用についてどこまで説明しているか 市民病院で勉強会があれば参加したい 医師の紹介状に経過や気を付けることなど一言追記して送って欲しい 病院での指導内容を連絡してもらえると薬局でも一貫した指導ができると思います 電話やFAXで気軽にキーワードだけでも伝えてもらえると嬉しい 	<p>現状では、市民病院薬剤局からすべての患者さんに関する情報提供書を送付することが困難です。今後少しずつ退院時情報提供書の発行を行う予定です。また、心不全ノートに市民病院入院中の服薬指導内容や留意点を可及的追記できるよう、取り組んでいきます。</p>

議論点	オンライン勉強会にての意見	コメント
②市民病院で取り組んでいる服薬アドヒアランス評価について ・薬薬連携の可能性について ・望まれる服薬アドヒアランス評価について	【服薬アドヒアランス評価の施行】 ・日常外来では難しい ・認知症患者さんでは難しい ・定期通院している患者さんの服薬管理能力を把握している	現在、市民病院入院中の心不全患者さんにDASC8による服薬アドヒアランス評価を行っています。評価に基づいて、退院時に行った服薬管理方法を地域の調剤薬局に情報提供していきたいと考えています。
	【服薬アドヒアランス評価方法】 ・スケールを用いた評価は行っていません ・長谷川式スケールを用いて評価しています ・MMSEを用いて評価することがあります ・次回受診時に残薬を持参してくださいとお願いしています ・空包確認は困難ですが行いたいです ・空包確認を行っています ・来局時の言動から管理能力を判断しています ・入院中の服薬自己管理導入後の状況をお薬手帳を介して連携することは有用性があると思います	
	【服薬アドヒアランス改善のための取り組み】 ・一包化（複数薬局） ・薬包に日付を入れる ・カレンダーを導入（複数薬局） 特に訪問薬剤指導を行っている患者さん（複数薬局） 外来患者さんでは、質問された時に提示しています 大量購入でき、安価なものを提供しています（複数薬局） 残薬管理を行い、大量にある患者さんにはカレンダー管理を勧めます	
③ガイドラインで推奨される心不全薬物療法について	【ポリファーマシーの観点から】 ・服薬錠数が多い、何とか減量できないか、という質問を受けます ・減量したいという患者さんには、かかりつけ医と相談してくださいと指導しています ・循環器領域の薬は多いという意見を聞くことがあります ・心不全治療のためには複数の薬が必要になるということを指導しています ・他科の薬を処方されている患者さんには、鎮痛剤などを増やさないよう指導することがあります（複数薬局） ・投薬内容に関して主治医に提案することは難しい	服薬錠数を減らすことは服薬アドヒアランス向上に有益ですが、鎮痛剤が必須の患者さんもみえると思います。日常臨床では指導が難しいこともあると考えます。
その他	・心不全は治らないと言っている患者さんにどのような指導を行ったらよいでしょうか	心不全は多くの場合は治りません。少しでも症状が軽減できるように、薬物療法などでコントロールを目指します。
	・在宅の現場からのフィードバックを受けて役立つのはどのような情報でしょうか	在宅医療の場合は空包確認を行いやすい可能性があります。アドヒアランス確認・指導がしやすいと考えます。